

台湾における日本食文化の研究

日大生産工(学部) ○石黒 元章 山本 壽夫

1 はじめに

近年、日本食は健康的かつ多様な食材を利用しているのに加え、ユネスコ無形文化遺産になったことにより、海外でブームが起きている。

その中でも、日本食が現在だけではなく過去からも受け入れられ続け、独自の日本食文化を発展させている国が、台湾である。

台湾にとって日本料理というのは戦後から根付いているものであり、そこから現代にかけても多くの台湾現地のの人々に受け入れられている。しかしながら、その日本料理は本来のものではなく、台湾人の味覚や習慣に順応したものであり、日本料理に対して誤ったイメージを持っている消費者も少なくない。

また、日本の大手飲食店で台湾に進出したものの、味やサービスを台湾のものに順応することができず、失敗してしまった例も多くある。

本研究では、日本料理の美味しさを台湾現地でそのまま台湾人に伝えるために、日本出店の懐石料理店の事業シミュレーションを行う。

2 研究目的、研究目標、研究方法

2.1 研究目的：

現在の台湾には日本食ブームの影響で数多くの日本の飲食店が進出し、飲食店の情勢は常に変化している。本研究では現在の日本料理店の出店数やニーズ等の現状を調査し、日本料理の概要を構成する。

2.2 研究目標

台湾での懐石料理店の事業を成功させるために、事業シミュレーションを行う。またそれにより台湾において本格的な日本料理を浸透させる方法を検討する。

2.3 研究手法

研究手法として、ケーススタディに基づき事業シミュレーションを行い、統計解析によって検証を行う。

3 先行研究

1) 王 淳鋒「台湾における日本料理の受容についての研究」育達商業科技大學 (2010)

台湾において日本料理がどのように受け入れられているのかを研究し、台湾の日本料理と日本の日本料理の双方を比較し、各国の趣向や文化の違いを論述している。

2) 後藤 俊治「変化しつつある台湾の日本食マーケット」公益財団法人交流協会台北事務所 (2016)

こちら台湾人と日本人の味覚の嗜好を述べているが、日本食レストランの進出の現状についても調査している。

4 現状分析

4.1 日本料理の由来と定義

台湾における日本食文化の研究を行うにおいて、日本料理の定義づけを行う。

『日本料理の定義は主に狭義と広義に分かれる。江戸時代末までに成立した日本の料理を狭義の日本料理、その後、第二次世界大戦前までに成立した日本独自の料理のスタイルを広義の日本料理であると考えている。これは、江戸期から昭和初期を現在の日本料理の成立期と見做す点で、前出の考えと共通するものであるといえる。このように、江戸時代末が現在の日本料理の成立の時期と見做されることは、伝統的な日本料理の進歩ないし変化が明治時代以降ほとんど生じていないからだということもできる。つまり、江戸期に成立した(狭義の)日本料理とは、現在では料亭などの高級料理店で供される料理であり、昭和期に成立した(広義の)日本料理とは、現在では食堂などの庶民向けの料理店で供されたり、一般の家庭料理として認知されている料理のことであるといってよい。』

(出典) 王 淳鋒「台湾における日本料理の受容についての研究」育達商業科技大學 (2010)

また、懐石料理とは安土・桃山時代から残ってきた歴史のある料理であり、本来の日本料理を代表

Study of Japanese food culture in Taiwan
Motofumi ISHIKURO , Hisao YAMAMOTO

するものであるといえる。上記より、本論文では日本料理を広義のものとし、狭義の日本料理において大きな意味合いを占める懐石料理と区別していく。

4.2 台湾における日本食品に対する意識

図1は台湾を含む主要7カ国に好きな外国料理をアンケートした結果である。以下の図より、台湾人にとって最も日本食品の人気が高いことがわかる。

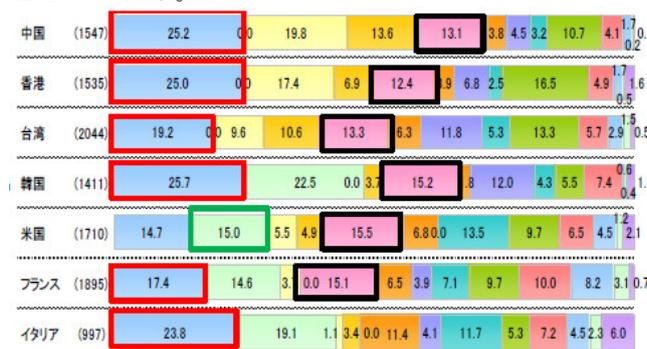


図1 好きな外国料理のアンケート結果 (出典) 「日本食品に対する海外消費者意識アンケート調査 (中国、香港、台湾、韓国、米国、フランス、イタリア) 7カ国・地域比較」ジェトロ(2013)

4.3 台湾の件数費、地価、公共料金

図3で示した通り、台湾における費用は日本のものとは全く異なる。件数費の差こそ大きいですが、特に台湾都心の地価に関しては東京のものほとんど差がないので、留意しておく必要がある。

比較項目	台北 (台湾)		東京 (日本)		
	ドル(\$)	NTD	ドル(\$)	円(¥)	
賃金	店舗スタッフ (月額)	636	20,338	1,074	125,252
地価	市内中心部				
	店舗スペース (1m ² 当たり, 月額)	45	1,448	56	6,505
公共料金	業務用電気料金 (月額基本料) (1kWh当たり)	5.22~ 7.38 0.07~ 0.10	167~ 236 2.35~ 3.13	14 0.12~ 0.13	1,576.8 13.92~ 14.83
	業務用水道料金 (月額基本料) (1m ³ 当たり)	0.56~ 1,818 0.23~ 0.38	18~ 58,120 7.35~ 12.08	3.29~ 255 0.25~ 0.55	384~ 29,760 29~ 64
	業務用ガス料金 (月額基本料) (1m ³ 当たり)	6.26~ 26 0.37	200~ 840 11.76	11 0.75~ 8.15	1,296.0 86.95~ 949.90

図2 台湾と日本の投資コスト比較 (1\$=31.962NTD, 1\$=116.60円として計算)

(出典) 「投資コスト比較 結果 | ビジネス情報検索・国・地域別に見る」ジェトロ(2017) を参考に作成

5 問題点

- 1) 日式料理の存在により、日本食本来の味が台湾人に浸透していない。
- 2) 日本から出店している店舗数がまだ少ない。

6 対応策

- 1) 新しい飲食事業を展開し、本来の日本料理の味を台湾現地で伝える。
- 2) 日本人料理人が直接監査し、システムを構築する。

7 予測考察

対応策の検証結果に基づき、更に台湾におけるニーズや改善点を見出し、日本料理の浸透に役立たせる結果を表すものである。

8 おわりに

日式料理と日本料理が混合することにより、どのような料理が本場の日本料理であるかわからない、という台湾人は多い。だが台湾人にとって日本料理は外国料理の中で最も人気の高い料理であり、需要は高いといえる。また台湾の日本食マーケットで成功するためには、台湾の状態やニーズにいかに対応していくかが重要となってくる。

今後更に研究を進め、研究の精度を上げる所存である。

「参考文献」

- ・王 淳鋒「台湾における日本料理の受容についての研究」育達商業科技大學 (2010)
- ・後藤 俊治「変化しつつある台湾の日本食マーケット」公益財団法人交流協会台北事務所 (2016)
- ・「日本食品に対する海外消費者意識アンケート調査 (中国、香港、台湾、韓国、米国、フランス、イタリア) 7カ国・地域比較」ジェトロ (2013)
- ・「投資コスト比較 結果 | ビジネス情報検索・国・地域別に見る」ジェトロ(2017)